

第2回 松阪市環境審議会 議事録

日時 : 平成18年3月23日(木) 13時30分～15時30分

場所 : 松阪市役所5階特別会議室

出席者 : 19名

審議会委員 14名

大谷幾津子、大西憲一、大橋純郎、岡本宗澤、門暉代司、
竹内昭剛、富田靖男、中野義則、西川博明、畑中英樹、
前田多香子、牧戸継右、山本清巳、吉田弘一

事務局 5名

大川生活環境部長、前川環境課長、三田環境推進担当主幹、
谷岡環境推進担当主査、若山環境推進係主任

〈議事〉

1. あいさつ

・環境課長あいさつ

・会長あいさつ

・環境審議会は情報公開にすることに、委員全員異議無し。

2. 「松阪市の環境における現況と課題」について

・事務局から内容の説明。

・審議開始

会 長：説明に対してわかりにくいところや、質問があればお願いします。

委 員：この冊子、全てに対しての質問等でよいか。

会 長：全てに対してのもので構わない。

委 員：水質調査の結果に、16年度、17年度のデータが無い。このような審議会の場ではなるべく最新の、確実な情報が必要となる。16、17年度のデータは出せないのか。また、この「改善傾向が見られる」という解説は、どういう方策をとって改善傾向が見られたのか、その辺が深く知りたい。

事務局：このデータは県の資料から拾い上げている。この冊子の作成時点では、平成15年度の資料までしか公開されていない。16、17年度のデータが必要ならば、県に問い合わせする。

委員：なるだけ最新の情報を載せてから話し合うのが、審議会のスタンス。16年度のデータは出てきても良いのではないかと。

会長：これは三重県の「環境白書」からの最新データであり、これより新しいものはまだ無い。公表されるまでには、検討にかなり時間がかかるためご理解いただきたい。

委員：この解説は松阪市独自で書いたのか、それともシンクタンクなどを使って作られたものなのか。

会長：シンクタンクも入っている。県の「環境白書」から活用しており、市が勝手に独自の判断でやったものではないと思う。

委員：水位の下がった理由（原因）が載っていないため、わかりにくい。どのような行動をすると水位が下がるのか、何もせずに下がるはずがない。なぜ水位が下がったのか、その原因を具体的に深く掘り下げることが大事なのではないのでしょうか。

会長：それは環境教育が子どもや大人の日常生活に浸透し、こういうものを流すと水位が下がるとか、公共下水道の整備の影響とか、行政のみならず市民、事業レベルで環境を良くする行動をしており、その皆さんの行動がこういう結果に集約されているのではないのでしょうか。

委員：具体的な行動があればわかりやすい、と私は言っている。一番大事なのは行動を起こすということ。「～する必要がある」とか、「～状況にある」とかで、じゃあどうするのかという具体的な方法が無い。これを審議していく必要があるのではないかと思う。

委員：環境学習ですが、私たちの子どもの頃はほとんど環境教育がされなかったものの、自然が豊かで、今ほど環境は悪くなかった。BOD、CODの環境基準はクリアしているが、40年前から見ると景観も悪くなってきている。子どもの教育は将来的にも重要で、松阪市の小中学校の環境への取組みはどのようなものか。

委員：市内の各学校は、それぞれの地域に応じた環境教育を行っている。新しい指導要領になってからは、小学校3年生以上は総合学習の時間を使って、体験学習を中心に、自分たちが出来る環境に対する取組みを行っていると思う。この審議会の場で何を話すのか焦点が定まっていないため、何を発言していいのか戸惑っている。その辺りをはっきり定めると、発言もしやすい。

事務局：「松阪市の環境基本計画」を作るために、現在の松阪市の環境を洗い出してまとめた。この課題を克服すると共に、50年後、100年後の将来を豊かな環境にするために、行政、市民、事業者が一体となって取り組んでいくための、計画作りの（案の）審議をお願いするものです。

会長：自然環境から文化、景観まで幅が広く難しい。

委員：あくまでもこの「現況と課題」から課題を抽出する。さらにこれを踏まえたうえで、次の計画に移る。そういうことですね。この「現況と課題」は前半が現況、後半が課題となっているが、後半部には現況と課題が混在している。文章表現の問題だと思うが、例えば「森林の持つ水源～公益的機能が低下している。」は現状である。これを課題にするなら「～公益的機能の向上を図る必要がある。」と、ちょっとした文章表現で課題が変わる。課題を踏まえて次に行く以上は、しっかり課題を整理していかないといけない。特に「環境学習としくみづくり」の部分はまさに現状そのままであり、課題ではない。例えば「学校教育や～関心が高い。」、これを課題にするなら「環境教育の充実を図る必要がある。」となる。その辺の現状と課題の違いを区分して、きちっと把握していくべきではないかと思う。

委員：私も同意見。そこのところはほとんど現況。こういう報告があるのでどうするか、というのをここで話し合うのかなと思っていた。

事務局：全国的に基本計画はコンサルタントを使って作成しているが、松阪市においては、コンサルタント業者の手を借りずに作っているため、何分手探り状態とも言え、皆さんの御意見はごもっともだと思います。

委員：最初に配られた「環境基本条例」の環境審議会について述べられている欄で、審議会が審議する基本的事項とはなにか。

事務局：「環境基本計画に関する事項」、これは環境基本計画策定上での審議という意味であり、「うるおいある～に関する基本的事項」とは、大きな環境問題について、どの審議会でも審議する内容ではない場合、この審議会で審議することになります。

委員：景観条例が無いのであれば、規制をかけるのはどこか。議会にあげて、改めてここで審議するのか。

事務局：その審議はいたしません。

委員：景観の制定には、ここの審議会は関係ないということ。

事務局：はい。

委員：水質のところの河川の種類の違いは？

会長：河川は6つの類型に分かれており、きれいな場所から順にAA、A、B、…という風になっていて、それぞれの類型でBOD基準値は決まっている。これは河川の汚染の実態を踏まえて、環境庁が指定。市内において、環境基準を定めている川の中で、金剛川が最も汚染が進んでいるD類型と考えられるが、今はC類型に近づいてきており、きれいになればランクアップしていく。

委員：小中学校のアンケートで、悪くなっている環境に対して自分はどうしているか、という結果が欲しかった。朝の金剛川は洗剤の泡で汚れているが、これでD類型かと。川をきれいにしようと思うなら、上流ではなくて、松阪市内の川の調査データがいると思う。

会長：国、県、市で調査地点は異なる。

委員：中村川や櫛田川ではなく、金剛川や神道川のデータを載せた方が、こんなに汚いということがわかる。

事務局：小さい川については、市独自で調査している。

委員：松阪市の環境なのだから、そういった川のデータが欲しい。市役所前の川がEM菌できれいになった、という市民の声がアンケートで欲しい。

委員：新松阪市の審議なのだから、旧松阪市のみでなく4振興局分の川も載せて欲しい。

委員：開発と環境は裏腹なところであるが、山下町の運動公園建設は、ひとつの面から見ると、芝生広場などは憩いの場となりますが、貴重な里山を潰して人工的なものを作ることは、環境面からみると非常にナンセンス。本当に必要なスポーツ施設は作る必要があると思うが、環境重視の面からは手をつけなくてほしい。公園下の水田にも貴重生物が生息しているが、人間の勝手な都合で住んでいる場所を別のところへ移すことを考えていることもナンセンスである。運動公園と自然環境について、環境アセスメントで議論したのか？

事務局：確認していない。

委員：環境担当としては、是非とも聞いておいて欲しい。

副会長：県内で、自前で基本計画を作ったところはあるのか？

事務局：調べた範囲ではありません。

副会長：普通は外部で雛型を作成し、それに対して審議するが、ゼロから作るというのは非常に大変。

事務局：他とは違う、松阪市らしいオリジナルなものを作り、指摘があれば見直しを繰り返して、数年かけて一番良いものをつくればいい、ということで、現時点で完璧なものを望んでいるわけではない。大変なこととは承知していますが、そこはフォローしていただきたい。

副会長：9月まであと半年しかないわけで、たたき台がないと進まない。次回には一つのたたき台が出来ていないと、進んでいかないと思う。

事務局：前半では現況としてもう少し要約し、後半は整理して課題にしぼり、この2つを案として次に進みたい。

会 長：河川は県の「環境白書」から引用しているため、大きな川しか載っていないが、市民生活に密着した川の水質変化のデータが資料として欲しい。

事務局：各市の計画書等には、誰もが知っている大きな川が載っており、松阪市もそれに習い、橿田川や阪内川などの大きな川で良いのかと考えていた。ネット上に市内の川のデータが出ている。計画書には細かなところまで載せる必要があるのだろうか。

委 員：松阪市独自のものを作るのならば、生活に密着したデータを使って作った方が、目指す松阪市ならではのものが出来るのでは。市民アンケートでも半数以上が水辺の環境に関心があるのだから、そのあたりは大事だと思う。コンサルタントが作ると非常に上手である半面、非常におもしろくないように感じる。泥臭くてもいいから、松阪市独自というのはいいと思う。

委 員：国や県がやっているような大きな川でなく、住民に密着した川を検討すべき。そのために漁業関係者、林業関係者などいろんな方がいるわけで、ここで意見をぶつけてやっていく。今日は山、次回は川というふうに、検討議題をもっとしぼって欲しい。

委 員：小さい川の調査結果を載せるには、時間的に無理なのでは？

委員：既にあるデータを使えばいい。一級河川などは県がやっている。市しか取り組めないような小さい川をどうしていくかが、松阪市版の環境だと思う。

委員：ではこのデータを差し替えるのか？

会長：差し替えではなく、別冊の参考資料として配ることは可能。書き上げる前の検討資料。

委員：苦情で「その他」は何か？

事務局：野焼きと雑草。市街地の混在地に多い。

委員：街路樹の伐採にも、雑草にもコストがかかる。市民に意識を持ってもらうためにも、悪い数字でも正確な情報が必要。「その他」ではなく雑草、野焼きとか、きちんと項目を分けて件数を挙げるべきだと思う。

会長：この部分は誤植が多すぎるので、次回までに訂正すること。

委員：景観についても聞きたい。

会長：他にも何かあれば、直接事務局に問い合わせたい。

委員：松阪港に水揚げされる魚介類はないので、訂正して欲しい。松阪沖で獲れるという意味ならわかりますが。先程から皆さん数字にこだわっていますが、環境は基準を人間にするか、生物にするかで違ってくる。人間にとって良い水が、必ずしも魚介類にとって良いものとは限らない。処理された栄養分（窒素、磷）のない水が海に流れ、海苔や魚介が栄養不足になってきている。データとしては良い数字だが、人間にとっての議論ばかりで、生物にとっては必ずしも良くないということを入り込んで欲しい。

委員：水と空気は、保護が必要なところまできている。松阪市は合併して森林率が高くなり、そこを源とする櫛田川などは昔に比べると汚れているのに、調査してみると基準をクリアしている。山が元気だと河川が元気になる。水の源は山だと思うので、松阪版としてはそこを議論したい。大雨が降ると泥水がでる、日照りが続くと水位が下がるなどは、完全に山に元気が無いということで、森林施策の失敗もあると思う。日本の山は死んだと言われており、山が死ぬと川も死ぬし、海も死ぬ。この辺りをしっかり議論していきたい。

委員：森林率が高い松阪は、施策効果があると思う。

委員：農薬を大量に使っていた頃に比べると、河川の水質は非常に良くなっていると思う。この調査は農薬を使わなくなってからの数字だと思うので、もっと長いスパンで見ると違ってくるのでは。悪い悪いと言うだけでなく、農薬を抑えるようになってきた、下水道で生活排水が流れないように改善してきた、その辺りまで広げてみればどうかなど。

会長：言葉の問題、分類法、川、里山問題など、ご指摘のところは手直しをして次回につなげていきたい。

3. 次回開催について

- ・前半はコンパクトに要約、後半は課題整理、生活に密着した河川資料の作成を次回までに行う。
- ・次回は「松阪市の環境像」についても議題とする。
- ・4月下旬～5月上旬に開催予定。

4. その他

委員：環境を良くする努力目標は何の罰則も無いため、努力しなくても誰も痛くない。ペナルティとまではいかななくても、ある程度拘束性のあるものでなくては実効力がないと思う。